

大阪港

万博控え夢洲の物流議論

来月2日に懇談会初会合

【関西】2025年の

大阪・関西万博開催を控え、大阪湾夢洲地区の物流対策への議論が本格化する。国土交通省近畿地方整備局は27日、「大阪湾夢洲地区の物流に関する懇談会」の第1回会合を12月2日に大阪市内で開催すると発表した。万博や現在誘致を進めているIR(統合型リゾート)の会場建設工事を踏まえ、港湾物流との共存に向けた情報共有を図る。

懇談会はロジスティクス経営士の上村多恵子氏を座長とし、大阪港連協会、夢洲コンテナターミナル(DICT)、辰巳商会、大阪府トラック協会、阪神国際港湾会社、関西経済連合会からそれぞれ構成員が加わる。

2日に大阪市港湾局で開かれる第1回会合では、懇談会の設置や今後の進め方といったことに加え、夢洲地区の渋滞と取り組みの現状を議題に、意見交換を行う。懇談会事務局は近畿地整、近畿運輸局、同市港湾局が務める。

25年に開かれる万博は人工島の夢洲地区で開かれるが、夢洲には大阪港の主要コンテナターミナルとなるDICTがある。

ゴールデンウィークなど長期休暇の前後はゲート前車両の渋滞が発生しており、万博やIR整備による工事車両の流入などが見込まれる中、物流への影響が懸案となっている。

懇談会の設置は10月に開かれた、関西の産官学で構成する国際物流戦略チームの第31回幹事会で、物流面での課題共有や解決に向け設置を決めた。同チーム幹事会の下に懇談会を置く。